

## 【導入事例】東芝デジタルマーケティングイニシアティブ Backlogでウェビナー運営の工程を効率化し、企画準備期間を2カ月から1カ月に短縮

株式会社ヌーラボ（本社：福岡県福岡市、以下 ヌーラボ）が提供するプロジェクト・タスク管理ツール「Backlog」は、東芝デジタルマーケティングイニシアティブ株式会社（本社：東京都港区、以下 東芝DMI）に導入され、顧客企業のウェビナー運営に活用されています。



※以下、事例取材記事『[企画にかかる期間が半分に。100のタスクを漏れなく回すBacklogウェビナー運営術](#)』から抜粋・編集・再構成しています。

### ■「Backlog」を導入した背景

東芝DMIは、デジタルテクノロジーを活用したコンサルティングとソリューションを提供し、顧客企業のマーケティングや営業活動の変革を支援しています。

同社が年間20～30本を手がけるウェビナー運営では、企画からアフターフォローまで多岐にわたる作業を、開催ごとに洗い出して管理していました。シリーズ展開を前提とした大型ウェビナーの企画を機に、継続的な開催に対応できる運営体制を整備するため、必要な作業をテンプレート化して展開できるBacklogを導入しました。

## ■ 「Backlog」を活用した取り組み

### 過去の作業を再利用して企画期間を半減

東芝DMIは、ウェビナー運営を重ねるなかで、登壇者情報の回収や発表資料の準備、集客施策など、企画からアフターフォローまでの工程を約100件のタスクとしてBacklogに蓄積しました。これらを次回以降の開催にも展開することで、開催ごとに作業を一から整理する工程を削減し、企画の具体化にかかる期間を2カ月から約1カ月へ短縮しました。

### 進捗を可視化することで会議を議論の場へ転換

複数のウェビナーを並行して進める際は、Backlogの「マイルストーン」機能を使って開催回ごとにタスクを整理しています。各担当者が事前にタスクの進捗を更新することで、会議での状況確認の時間を減らし、議論や判断に集中できるようになりました。

### 顧客企業と情報を共有し、社外を含むプロジェクト管理を実現

顧客企業もゲストユーザーとしてBacklogに参加し、ウェビナーに関する確認事項や決定事項を記録しています。双方が進捗や対応内容を同じ環境で確認できるようになり、認識のずれを防ぎながら進められるようになりました。

## ■ 東芝DMI 担当者のコメント



ソリューション本部 ソリューション推進部 ソリューション推進第二担当  
左) グループ長 大西氏 / 右) 齋藤氏

ウェビナー運営の“型”ができてからは、企画の具体化を効率的に進められるようになりました。やるべきことが明確になり、毎回一から検討する時間も削減されています。Backlogでは常に最新の状態を共有でき、お客様とも「こういう課題がある」という共通認識を持てます。双方に情報が提示され、役割分担が明確になるため、仕事の進めやすさにもつながっています。今後は、ほかの業務やプロジェクトにもBacklogの活用を広げ、ミスや抜け漏れの削減につなげていきたいと考えています。

## ■ Backlogについて

Backlog（バックログ）は、チームで働くすべての人が使えるプロジェクト・タスク管理ツールです。課題管理やガントチャート、ドキュメントなどの機能を通じて、チーム全体の進捗や役割分担を一元管理し、情報共有・タスク管理の効率化を支援します。

<https://backlog.com/ja>

## ■ 株式会社ヌーラボについて

代表者：橋本正徳

本社：福岡県福岡市中央区大名一丁目8-6 HCC BLD. 2・6・7F

東京事務所：東京都港区芝大門二丁目1番16号 +SHIFT SHIBADAIMON B1F

コーポレートサイト：<https://nulab.com>

採用サイト：<https://careers.nulab.com/>